

産業連携会議について（案）

平成28年6月

総務省・文部科学省・経済産業省

産業連携会議で議論すべき課題（案）

- 戦略会議は、次世代のA I 技術に関し、研究開発と産業化の総合調整を行うため、3 省が行う研究開発その他の事業の社会実装の円滑化、加速化に係る施策等の調査・検討を行う産業連携会議を設置する。（人工知能技術戦略会議運営要綱第7条第1項）
- 産業連携会議で調査・検討を行う課題（案）と扱う優先順位（案）は以下のとおり。

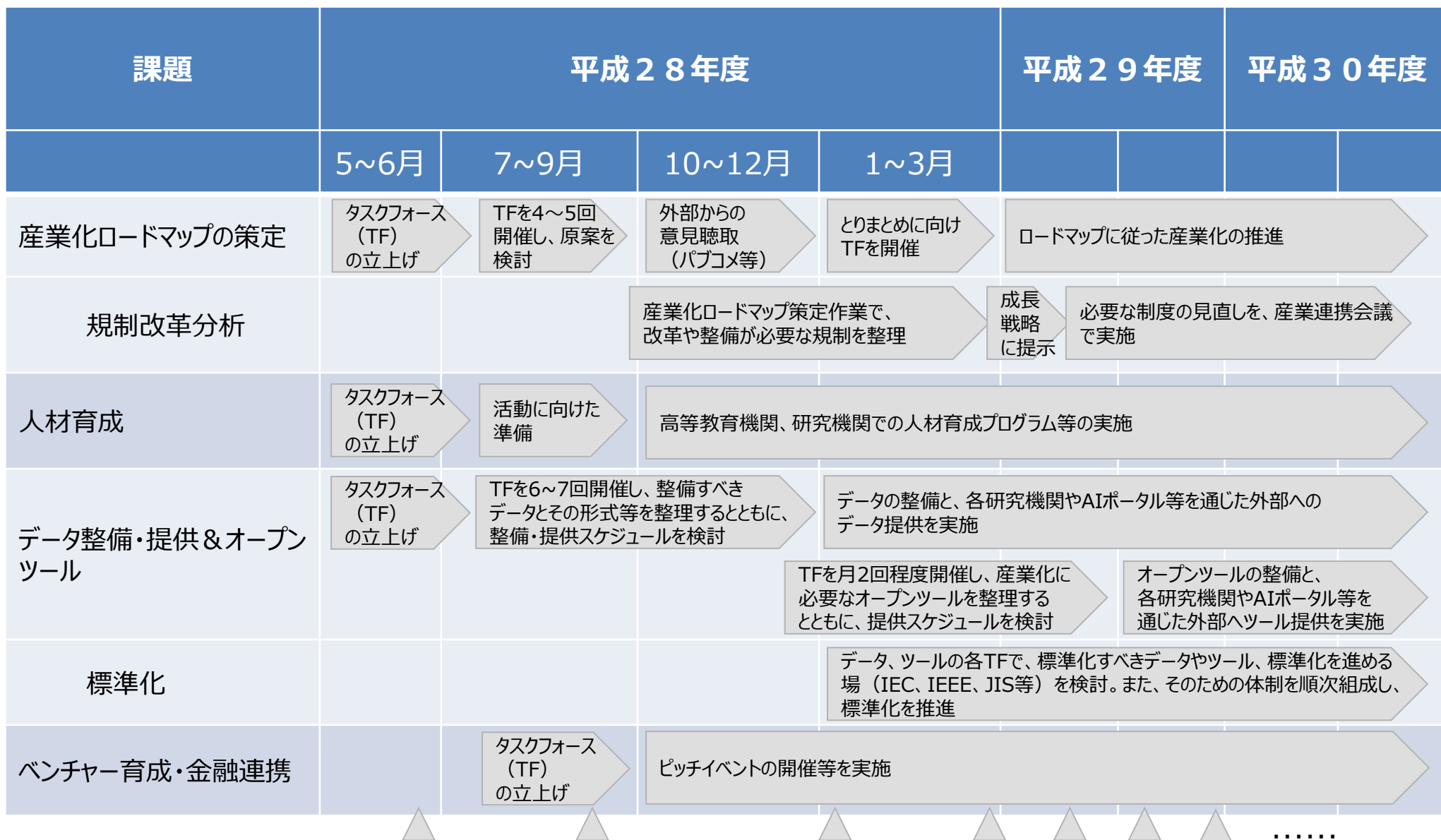
1. 産業化ロードマップの策定 ……現在、2020、30年までのAI技術の潮流と出口の可視化
2. 人材育成 …… AI時代の即戦力人材の育成（データサイエンティスト・エンジニア等）
中長期的なAI技術に係る人材育成方策
3. データ整備・提供&
オープンツール ……AI研究や産業化のためのデータ共有枠組みの整備（政府保有データのデータ
セット化、収集・提供等）、AI汎用オープンツールの整備と提供
4. ベンチャー育成・金融連携 ……ベンチャーの立ち上げ支援や、ベンチャーと大企業・金融機関等との
マッチング支援
5. 標準化 ……標準化すべきAI関連技術の特定と標準化の支援
6. 規制改革分析 ……人工知能の産業化に向けて必要となる規制・制度項目の整理

⋮

課題解決の推進体制（案）

- 産業化ロードマップの策定、人材育成、データ整備・提供&オープンツール、ベンチャー育成・金融連携については、タスクフォース（TF）を立ち上げて推進。
- TFのメンバーは、TFの主査と、TFの事務局の間で相談の上検討。（大学、国研、企業等のAI有識者・関係者等から構成されるイメージ）
- 標準化については、データ整備・提供&オープンツールTFであわせて検討。
- 規制改革分析については、産業化ロードマップの策定作業であわせて検討。
- 各TFの事務局は、事務貢献に立候補する機関に委任。（複数機関が立候補する場合には役割分担を決めた上で合同事務局とする。）
- 親会議（産業連携会議）は、各TFでの検討内容に関する報告を主査又は事務局から受けるとともに、各TFに対して意見や指示を行う。

課題解決に向けた工程表（案）



▲：人工知能技術戦略会議の開催（P）

※産業連携会議は2ヶ月に1回程度開催することを想定